

(別紙4(1))

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500238		
法人名	社会福祉法人 つつじ会		
事業所名	グループホームまえさわ苑折居館		
所在地	岩手県奥州市前沢区古城字北館21番1		
自己評価作成日	平成26年3月5日	評価結果市町村受理日	平成26年5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JivogyoCd=0391500238-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目		
訪問調査日	平成26年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者と職員が共に家庭的な雰囲気の中で接し、支え合いながら生活を送っています。家事的な作業や行事の準備を利用者と一緒に行う事が多く、ホームでの生活を共有しているという事を強く実感しております。また、利用者の要望(外出、活動等)にはすぐ対応するよう、職員全員で取り組み、満足していただけるよう心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員、職員同士の人間関係は極めて良好であり、職員は常に生き生きとして笑顔で接し、利用者との親密なコミュニケーションを大切にしながら利用者へ寄り添っている。面会の機会が減った家族には、施設(当該事業所含む)の広報誌と一緒に手紙を届けているほか、利用者の誕生日には、全職員で手書きのお祝いカードを贈る等、利用者や家族の絆が途絶えないよう気配りや思いやりが、随所に見受けられ、利用者・家族と職員との信頼関係には高いものがある。また、法人としての理念の他に、「ゆっくり・一緒に・楽しく」をキャッチフレーズとした事業所独自の年間目標を定め、3ヶ月ごとに反省と次の目標を確認し合いながら、利用者が家庭的な雰囲気の中で楽しく、笑顔で暮らしていけるよう、利用者主体のケアが実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	掲げている理念をもとに、地域の方々との交流を図ることができるよう取り組んでおります。地域行事への参加等の機会をもっと増やしていきたいと思っております。	法人としての理念の他に、「ゆっくり・一緒に・楽しく」をキャッチフレーズとした事業所独自の年間目標を定め、事務室と食堂兼居間に掲示しており、3ヶ月ごとに反省と、次の目標を確認し合いながら、管理者と職員で共有し、利用者が家庭的な雰囲気の中で楽しく笑顔で暮らしていけるよう実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩を行ったり、地域行事に参加したりする事で、近隣の方々との交流を図るよう心掛けています。また、近所のお店も利用し、馴染みの関係をつくれるように努めています。	自治会には加入していないが、地区のお知らせは配布されている。利用者の半数以上が、地域出身ということもあり、入居していることを他人に知られたくないとの思いも強く、地域の人達との交流を避ける傾向にあるが、地区の文化祭、敬老会、小学校の運動会等には参加するようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献としての取り組みはまだ実践できていない状態です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、ホームでの生活の様子や行事の参加状況を報告しております。また、行事の見学、参加をしていただく事もあります。ホームに対する要望、意見等を聞き、運営に反映していけるよう取り組んでおります。	利用者代表、家族代表、区長(地域住民)及び地域包括センター職員、事業所側として施設長、所長及び管理者で構成する運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、事業所から夏祭りや芋煮会、インフルエンザ対応といった諸行事を報告しているほか、参加者から意見等を頂きながら事業所の運営に活かしている。	現在の構成員は、利用者と家族代表、区長、地域包括支援センター職員、施設長、所長及び管理者となっているが、民生委員、地域住民及び職員、必要に応じて消防署員や警察官にも案内する等、構成員を増員する方向で検討されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の他には、あまり連携を取り合う機会はありません。	運営推進会議には必ず地域包括支援センター職員が出席しており、事業所の諸行事や取り組み状況を伝え、意見や助言を頂いている。また、事案によっては個別に、法人として施設長が市の担当課に、直接報告・相談、アドバイス等を受けながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、ホームでは対象となる利用者はいません。また、施錠を行っている場所はありません。	事業所としては、現在のところ「徘徊に不安のある人」がいないこともあり、独自のマニュアルは作成していないが、身体拘束の内容と弊害については、年6回開催している全体の職員会議において、法人のマニュアルを活用して話し合っており、事業所として無施錠を徹底しているほか、言葉かけにも気を付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体での研修会、外部研修への参加を行っています。全職員が正しく理解し、同じ意識を持つて対応できるよう努めたいと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解はまだ出来ていない状態です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明等は行っており、家族からの理解、納得を得ております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、サービス担当者会議、運営推進会議等で、利用者や家族からの要望を聞き、運営の改善に繋げられるよう努めております。	家族からは、入居時や面会時、電話、法人としての家族会等で意見や要望を聴取のうえ、把握し、利用者からは日々の会話の中で思いや希望等を聞いて、利用者主体の運営に結び付けている。また、意見箱等は設置していないが、家族からの色々な意見や相談等については、所長が個別に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や面談等により、職員からの意見や提案を求め、その内容を運営や日常介護の中に反映できるようにしております。	毎月開催している職員会議や、年1回行われる施設長と職員の面談を通して、行事の持ち方、利用者とかかわり方といった職員の気づきや提案を聞き、取り入れながら運営に活かしている。自己評価については、全職員に配布・記載してもらい、それを管理者が集約のうえ作成している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況等を把握するようしております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内外の研修に参加できる機会を設け、知識向上、より良いケアにつなげられるよう努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等を通じて交流を図り、情報交換をおこなっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人または家族にアセスメントを実施し、全職員が情報を共有し、対応するよう努めています。また、不安な点、要望に対する配慮を早急に行うようにしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前のアセスメントを実施し、要望等を聞いております。遠慮なく話していただけるよう、話しやすい雰囲気作りを心掛けております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前のアセスメント、または入所後できるだけ早い段階で、必要な支援内容を見極めるよう、家族との話し合いや職員間での情報共有を行い、対応するよう努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事的な作業や行事の準備等を一緒に行うことにより、お互いに助け合いながら共に暮らしているという意識を深められるよう、心掛けております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な範囲で家族との外出、外泊、通院対応等を行ってもらったり、行事に参加してもらうことにより、家族と本人とのつながりを支援しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親戚、知人の方々が気軽に来ていただけるような声掛け、雰囲気作りに努めています。	入居時に、子供や孫、友人、知人、親戚等馴染みの人や理髪店等行きつけの場所等を聞き取りし、把握しているほか、日々の寄り添いや会話の中で思いや希望を把握し、手紙書き、電話かけの手伝い、理髪店への同行等、身近な人達との繋がりが継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の愛称を把握し、良好なコミュニケーションを図れるよう支援しています。また、トラブルを防ぐよう様子を見ながら職員が間に入ったり、難聴の利用者への配慮を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ADLが低下したことにより、同法人の特養へ移動入所した方に、利用者と面会に行き、共に暮らした仲間の関係を継続できるようにしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行きたい所、やりたい事、他利用者との関係等について、要望や意見を話してもらい、希望に沿えるよう対応しております。思いを伝えられない利用者については、普段の関わり、傾聴を重視し本人の思いを見出していけるよう心掛けております。	毎日記録している生活記録、日々の会話やコミュニケーションを通して、利用者の思いや意向を把握し、管理者と職員で共有している。特に、日常のケアに関する思いや意向の把握に当たっては、利用者のプライドやプライバシーに配慮し、居室や入浴時等、1対1になった時に行うよう、心配りしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメント、面会者からの情報等を得て、より良い対応につなげていけるよう、職員間で話し合いながら対応しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が個々の状態を把握できるよう、生活記録、申し送り等による情報交換に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議で、利用者1人1人に対する対応について話し合いを行っております。また、定期的なモニタリングを実施し、関係者との話し合いを持ち、介護計画を作成しております。	入居当初は、本人及び家族とよく話し合い、意見やアイデアを取り入れながら作成している。見直しは、職員会議等でモニタリングしながら、3ヶ月に1回、変化が見られた時はその都度、行っている。通常のモニタリング結果については、年2回開催しているサービス担当者会議の際、家族に伝えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はできるだけ細かく、また多くの情報を全職員で共有できるよう努め、ケアにつなげていけるようにしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の状況に応じて臨機応変に対応できるよう、心掛けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はまだ少なく、利用者の生活に取り入れているのは、理容院の方々による理容ボランティアのみとなっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医で受診できるよう支援しております。利用者のうち半数程が家族対応での受診を行っています。職員対応での受診の方については、受診内容を家族に伝えております。	すべての利用者が入居前からのかかりつけ医を利用しており、受診に当たっては、半数の利用者については家族が同行、残りの半数については職員が同行している。受診結果については、通院記録に記載するとともに、職員が同行した場合は、電話等で家族に伝え情報の共有化を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の利用者の状態を報告し、相談したり指示を受けながら対応しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族、医師、ケアワーカー等との話し合いにより、退院後の生活について検討しております。また、定期的にお見舞いに行き、状態を把握するようにしております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で重度化した場合、終末期に入った場合の対応について、家族と確認を取るようにしております。	事業所としては看取りをしないこととしており、重度化した場合は、終末期の対応について家族に改めて確認し、対応することとしている。過去には、法人が同一建物で運営している特別養護老人ホームに打診や紹介し、特別養護老人ホームで看取りした例があり、重度化した場合は、今後も同様の対応を考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命処置等の講習は、全職員が定期的を受講しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルをもとに、時間帯別に想定した避難訓練、非常招集訓練を実施しております。	法人として防災マニュアルを作成のうえ、屋間の避難訓練を年1回消防署員の協力を得て実施しているほか、消防署及び全職員を対象とした電話連絡網による夜間想定非常招集訓練を年1回実施している。また、法人として、主に非常用の食料、飲料水を中心に備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は職員の言葉遣い、表情に敏感に反応する為、丁寧な対応、不快な思いをしないような対応を心掛けております。また、失禁等の際の対応も慎重におこなっております。	利用者に対しては、全員「さん」付けで呼んでおり、本人の人格や誇り、尊厳、プライバシーを損ねないような言葉遣いに心掛けています。また、排せつの失敗等の時にも、他の利用者等に気づかれないよう気配りしながら、本人の人格等を傷つけてしまわないように目立たず、さりげない言葉掛けで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを伝えられない利用者もいる為、本人の気持ちを察しながら、自己決定を促す声掛けをするよう工夫しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の流れは決まっておりますが、起床、就寝、午睡等の時間はそれぞれ、個々のペースに合わせて支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容、外出時のおしゃれ等、本人の好みに合わせて支援しております。また、理髪もできるだけいきつけの店でできるよう支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	米研ぎ、調理の下準備、簡単な作業を利用者と一緒に行っております。また、下膳や食器洗いも等も利用者が率先して行っており、利用者と職員が共に食事を楽しむことができている。食事の献立も、利用者の好みに合わせられるよう、嗜好を聞いて取り入れるようにしています。	少量の食材の買い出し、簡単な食事の準備、後片付けを職員と一緒にしており、職員も利用者と同じものを食べている。また、季節季節には、おはぎ、いものこ汁、もち料理、七草がゆといった旬の食材を用いた食事やすいとん等好みのものを提供し、利用者が楽しんで食事できるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量をチェックし、職員間で状況を把握しながら個々の支援を行っております。食事、水分の内容もそれぞれの好みに合わせたものを提供できるよう工夫しています。また、水分補給は提供のタイミングを考えながら行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、見守り、一部介助にて毎食後の口腔ケアをおこなっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表による排泄パターンの把握や、職員間での情報交換を行うことにより、できるだけ失禁を防ぎ、不快感を軽減できるよう取り組んでおります。特に、便失禁についての対応は重視しております。	利用者一人ひとりについて、1週間の排泄パターンを基に作成している排泄チェック表や職員が、毎日、記入、申し送りしている生活記録を活用して、トイレでの排泄を支援している。中には、一時期入院した利用者で退院時オムツ使用だったが、その後パンツに替わった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品や乳製品を意識的に食事に取り入れたり、水分摂取を促すような働きかけを行っております。また、医務やかかりつけ医への相談をしながら対応しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分に合わせて入浴できるよう支援しております。入浴回数、入浴時間、入浴温度等も個々に合わせて実施しています。	入浴は、原則として毎日午前8時30分から午後5時15分までとしているが、利用者一人ひとりの体調や気分、これまでの生活習慣や希望に沿って、楽しく入浴できるよう支援している。また、利用者の状態によっては、併設されている特別養護老人ホームでの入浴もできるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの居室、リビングのソファ等好みの場所で休息をとっていただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの説明や、処方時の説明により、服薬の注意事項は必ず確認し、職員に周知するようにしています。また、確実な服薬介助を行い、様子観察も十分行うよう努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事的な役割を意欲的に行ったり、編み物、工作、読書、散歩等の活動を楽しんで行えるよう支援しております。また、年間を通して様々な行事を計画し、実施しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外への散歩、外出等、本人の希望に沿って対応できるよう心掛けています。また、それぞれの興味関心のあるイベント見学等に出掛けられるよう、情報収集を行い外出の機会を増やしています。	戸外への散歩、買い物、ドライブ、文化祭、音楽会、展示会等々といったイベント見学、家族との温泉旅行等、利用者の希望に沿って支援しているが、利用者の半数以上が地域出身で、入居していることを他人に知られたくないとの思いが強いこともあり、戸外への散歩や外出は少ないように見受けられた。	現在も、戸外への散歩、外出、ドライブ及びイベント見学等、いろいろの外出支援をしているが、参加者が一部利用者に限られていることも見受けられることから、より多くの利用者が参加し、地域住民と交流を深められるよう、何らかの工夫がなされることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談のうえ、財布を所持している利用者もいます。持っているだけで安心する方、買物時に自分で支払いたい方、と個々に合わせてお金の管理を支援できるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば、すぐに対応できるようにしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合った装飾を取り入れたり、花を飾るなどし、季節感を味わっていただけるよう工夫しております。また、明るさや温度、音等への配慮にも努めております。	食堂兼居間、廊下、トイレ等共用スペースには、すべて手摺が設置されているほか、避難用として、すべり台と階段も設置されており、利用者の安全・安心に配慮した造りになっている。また、職員が協力して作った、花柄模様の装飾品や季節の花々が飾られており、利用者が季節感を味わいながら、楽しく過ごせるような工夫もなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファは、決まった利用者だけが利用するのではなく、多くの利用者が使えるよう配慮しています。それぞれが、新聞を読んだり、楽しく会話をしたりと共用空間を有効に活用しています。また、ベランダでは外をゆっくり眺めたり、椅子に座って日光浴をおこなったりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家から使い慣れた衣装ケースや椅子等を持って来ていただき、部屋作りを行っております。また、生活していくうちに必要になった物は、本人や家族と相談しながら、そろえるようにしております。	居室には備え付けとして、洗面台・冷暖房器具・ベッド及び整理ダンスが、使い易いように配置されており、持ち込みも自由で、使い慣れた衣装ケースや椅子、テレビ等を持ち込んでいる利用者も多く、家庭的な雰囲気の中で居心地良く暮らせるよう心配りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を支援できるよう、建物内部を工夫しております。生活していく中で必要な物があれば、早急に整備できるよう心掛けております。		